

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	貝塚市新庁舎	階数	地上6F
建設地	大阪府貝塚市島中1丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	1,500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,600 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2020年11月27日
敷地面積	16,084 m <sup>2</sup>	作成者	福田 瑞穂
建築面積	2,685 m <sup>2</sup>	確認日	2020年11月30日
延床面積	12,525 m <sup>2</sup>	確認者	福田 瑞穂



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超:☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 4.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

**LR のスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
太陽光や通風など自然の恵みを活かした環境にやさしいシステムを積極的に活用する。外の熱を入れない、内の熱を逃さない高断熱化に取り組む。ライフサイクルコストに配慮した構造及び設えとする。		計画敷地は市の主要施設が集積していることを考慮し、明るく開かれた庁舎のイメージを表現するガラスと白のパネルによる軽やかな色彩、つげ櫛をモチーフとした外観デザインを採用するとともに、水平ラインを基調とし
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
執務空間は、極力自然エネルギー(光、風)を利用できる至配置を工夫している。また、直射日光の進入抑制に有効な庇を各所に配置している。	執務スペース等は大空間、パーティション等による間仕切り壁、OAフロアとし、将来のレイアウト変更に対応できる計画とする。そのほか設備機器を中心とした維持管理の効率化のため、省エネ管理システムを導入する。ま	敷地内については十分な緑化を行い、地域アメニティの向上と緑化による景観形成およびヒートアイランド防止に貢献する計画としている。建物は東西軸配置とし、空調負荷が大きくなる東西面の
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
雨水を植栽散水に利用するため、雨水の再生利用が可能な設備を設置する。また、地中熱を利用した外気負荷低減を図るため、外気導入の為にピットを確保する。	環境負荷の軽減、人体への安全性及び快適性を考慮して、地域産材をはじめとする自然材料を採用する。	庁舎北側に広場を設置することで、周囲への圧迫感の軽減を図っている。接地階には下屋空間を設け、開放的なガラス張りとする事で、庁舎内のにぎわいや活気を感じられる設えとする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0114

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	貝塚市新庁舎整備						
		建設地	大阪府貝塚市畠中1丁目						
		用途/区分	事務所 集会所						
【評価結果】		CASBEE 総合評価					S		
①	CO2削減						4		
②	みどり・ヒート アイランド対策						4		
③	建物の断熱性						4		
④	エネルギー削減						4		
⑤	自然エネルギー直接利用						○		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
エネルギー消費量の報告						報告しない			
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.8	4		
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				4.0	4		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.3	4		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.6	4		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				5.0	○		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
		技術の名称			考慮事項				
先進的技術の導入		太陽光発電			屋上部に十分な面積を確保できたため。				
特に配慮した事項									